

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1番1号 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／村木雅直

URL: <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部の教育研究について・・・1～2	国際交流・・・・・・・・・・・・・・6～8
	データサイエンス教育について・・・2～3	資格取得等報奨制度・・・・・・・・・・8
	学生生活だより・・・・・・・・・・・・3～4	令和6年度後援会総会について・・・8
	経済学部百周年記念事業・・・・・・・・4～5	

経済学部の教育研究について

経済学部長 中野桂



平素より、経済学部の教育・研究にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度は、彦根高商創立百周年を迎え、記念式典をはじめ、多くの記念事業等が行われました。詳しくは本誌4頁以降に紹介しておりますが、それ以外にも、記念事業あるいは関連イベントとして大学全体で様々な催しが行われています。経済経営研究所では今年7月から来年3月まで企画展「経済経営研究所百年紀―彦根高商に始まる、教育、調査、研究の1世紀―」が開催されています。附属図書館でも、今年9月から来年の3月にかけて、経済学部百周年記念パネル展が開催されています。また、史料館では今年10月から11月にかけて、初代伊藤忠兵衛没後120年特別展「初代忠兵衛と事業経営」が開催され、百周年に花を添えてくれました。開催中のものもありますので、この機会にぜひとも

キャンパスをご訪問いただき、彦根高商にはじまる滋賀大学経済学部の源流に触れてみていただければと思います。

さて、100年の節目を迎えたわけですが、この100年間はIT技術のすさまじい発展など、大きな変化がありました。それは単なるデジタル化だけではなく、デジタル技術やデータサイエンスを活用して、業務の革新やビジネスモデルの構築を促し、さらには組織や企業文化までも変革させるものとして認識されるようになりました。いわゆるDX化です。経済学部ならびに大学院経済学研究科では、こうしたDX化に対応するために、学部ではデータサイエンス・コースやデータサイエンス副専攻、大学院でもデータサイエンス副専攻や経営分析学専攻(令和6年度開始)といった新たな教育プログラムを導入し、対応をはかっています。

また、単に新しいテクノロジーに対応するだけでなく、次の時代を見通したり、あるいは予期せぬ変化に対応したりする力を養うために、幅広い教養教育を行い、また専門教育も分野横断的に履修できるように改革も行いました(令和5年度学部改組)。

今特に、注目しているのがアート思考です。アリストテレス(紀元前

384年・紀元前322年)やダヴィンチ(1452年・1519年)を思い浮かべていただけるとわかるように、アートとサイエンスは、つい最近まで未分化だったと言えるでしょう。しかしながら、近代になって、アプローチがそれぞれ独自に進化し、なぜかアートとサイエンスは水と油のようにとらえられるようになってしまいました。サイエンスは定量化できるものを中心に、再現性が重視されるようになりまし、アートはむしろ定量化できないものを扱うことが多く、また再現性も困難なものが多くあります。特に、この100年は「(狭義の)サイエンスの時代」だったかもしれせん。

しかしながら、ここに来て、定量化できないものの重要性が目されるようになってきています。教育の分野でいうと物事に対する姿勢(積極性や粘り強さ)や他者との関係の構築(コミュニケーション能力・リーダーシップ)など数値では測りにくい「非認知能力」です。ハーバード大学のハワード・ガードナー教授の提唱する「多重知能論(マルチプル・インテリジェンス)」も、音感能力、空間認識力、対人関係力、自然認識力など定量化が難しいものがほとんどです。アート思考はまさにこうした定量化しにくい力を養うものとなります。

アート思考は決して音楽を作ったり、絵をかいたりすることではありません。五感を活用して、物事を多角的に、時には俯瞰的に、また時には顕微鏡的に観察したりする態度のことを指します。これは、課題の発見や解決の糸口を見つけてるのに役立つたりします。

必要なのは、サイエンスとアートが、かつてのように手を取り合っていて、変化の激しい時代に向き合うことであると思います。量子力学の世界は複素数を使わないと表現できないそうです。複素数とは単体では観測不能ですが、二乗すると定量化（観測可能な形）になります。学生時代には何の役に立つのかわからなかった複素数が、量子力学の世界で立派に役立っていることを知った時には感動を覚えました。

この100年間は大きな変化がありました。一方で、何を幸せと感じるかなど人間そのものには大きな変化はありません。滋賀大学経済学部はこれからも、技術などの進歩を積極的に取り入れつつ、それらをどのように活用して人間社会を豊かにすることができるとかを考え、人が自然と発育する環境の提供をはかりたいと思います。引き続きご支援のほどよろしく願いいたします。

データサイエンス教育について

データサイエンス学部長

椎名 洋



滋賀大学データサイエンス学部は、2017年に日本で最初に「データサイエンス」という名称をつけた学部です。それ以来、7年が過ぎました。その後、データサイエンス系の学部は、少しづつ増えてきましたが、昨年あたりから一挙に数が増えました。一橋大学のソーシャル・データサイエンス学部、名古屋市のデータサイエンス学部、京都女子大学のデータサイエンス学部、大阪成蹊大学のデータサイエンス学部などが昨年度4月に創設されました。この流れはさらに強まっていくことが予想され、日本の学士レベルのデータサイエンス教育の規模が何倍にもアップすることになります。

データサイエンス系学部への高校生の志望者数は増加しているのですが、これを上回る規模で学部・学科が増えており、むしろ倍率は下がる

傾向もみられています。一方で、DX人材の不足は数十万人規模といわれており、社会的な需要の大きさを考えると、まだまだ供給側である大学の教育体制は規模的に不十分であるとも思われます。

そんな中で、滋賀大学データサイエンス学部も、データサイエンス教育のリーダーとして様々な取り組みをしています。一つは、文科省のプロジェクトである「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」の拠点校（全国で11の大学が選ばれている）として、多くのデータサイエンスの教材づくり、カリキュラム作りをしています。例えば、「大学生のためのデータサイエンス」というオンライン学習シリーズは、様々な大学や企業でデータサイエンスの入門教材として使われ、延べで数万人に視聴されています。

また、同じ文科省のプロジェクトである「統計エキスパート人材育成事業」では、中核拠点である統計数理研究所の西の拠点として、データサイエンスの中核をなす統計学の専門家の育成に貢献しています。

先に名前をあげたようなデータサイエンス系学部が横に繋がった組織である「データサイエンス系大学教育組織連絡会」も滋賀大学の呼びかけて始まったものです。現在11のデータサイエンス系学部が参加して、データサイエンスの認知・普及

のために協力しています。データサイエンスという学問は、まだまだ高校生に認知されていません。特に、多くの高校生やその父兄が、データサイエンスは理系の人がいく分野だと思っっていますが、これは誤解です。データサイエンスは、データ収集や分析のための体系的な知識・技術を「手段」として使い、最終的に何らかの価値創造を行うことを目的としています。価値創造の様々な局面で文系的な知識が必要になります。

このようなデータサイエンス教育の全国的な普及活動の一方で、滋賀大学自身における教育の充実・発展にも努めています。2021年度から、創設期のカリキュラムを改訂して、新しい第二期のカリキュラムを開始しました。この際、従来になかったAIに関する科目（AI概論、AI情報倫理、AI・機械学習入門、AI・機械学習）を新たに設けました。これは、深層学習が急速な勢いで実用化され、その有用性が強く認識されたことが背景にあります。そして、ご存知のように、昨年度末あたりから、生成系AI、特にChatGPTが人間の知的活動に大変な影響を与え始めました。そこで、急遽生成系AIに関する科目「生成系AIの理論と活用」を2023年度の秋学期の講義として開講しました。前半の理論編で、生成系AIの背後にある理論的な枠組みを

学び、後半の活用編では、生成系AIを使用して実際の課題を解く演習を行うものです。生成系AIはものすごい勢いで発展している最中の分野ですので、生徒に教えるべき内容や方法についても確立されたものはありません。10人の教員が知恵を出し合って、試行錯誤しながら作り上げていく授業になります。

通常、大学のカリキュラムは4年に一度ぐらいのペースで改訂していくことが多いのですが、現在のデータサイエンス分野の発展の激しさを考えると、今後、毎年調整をしていく必要があります。大学として、トレンドに振り回された教育をするのは避けるべきであり、学問の本質的なことを教えるべきであるというのには正論かと思いますが、ここから数年はその本質にかかわる事項、つまり学問とは何か、人間が学習するのは何のためかといった根本的な事項が大きく変わってくる可能性があります。その中で、データサイエンス学部は模索を続けていかねばなりません。

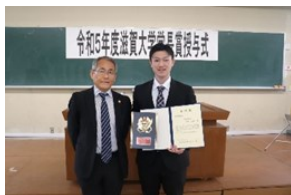


学生活動だより

滋賀大学学長賞

6月3日(土)、6月29日(木)、11月8日(水)の3回にわたり令和5年度滋賀大学学長賞授与式を挙行了しました。

授与式では、選考結果の概要について説明があり、課外活動でめざましい成果をあげた受賞者の皆さんに竹村学長より表彰状と盾、副賞が授与されました。授与の後、学長から祝辞があり、受賞者から謝辞が述べられました。呉屋さんは謝辞の中で、「たくさんさんの人の支えがあったから競技を続けることができました。今後も感謝の気持ちを持って挑戦者であることも忘れず頑張りたい」と話し、柴原さんは、「まだまだ経験・実力が不足する中でも教員の指導の賜物として書道展賞を受賞することができた」と感謝を表していました。片山さん、西村さんは多



学長と記念撮影
呉屋さん(上)、柴原さん(下)

くの方々に支えられながら成果が出せたことへの感謝を表していました。



西村さん(左)、片山さん(右)

受賞理由は以下のとおりです。

呉屋広樹さん(教育学部)
第40回全日本空手道選手権大会 中量級 優勝 他

柴原茉央さん(教育学部)

第27回全日本高校・大学生書道展 書道展賞

片山好人さん(経済学部)

ウインドサーフィン世界選手権 [Techno293 World Championship] 20231 優勝

西村菜々花さん(データサイエンス学部)

第74回朝日レガッタ 一般女子シングルスカル 優勝

滋和戦

6月17日(土)、18日(日)を中心に、第56回滋賀大学・和歌山大学二大学学長杯争奪総合定期戦が開催されました。この定期戦は本学と和歌山大学の課外活動の健全な発展と大学相互間の友情・親睦を深める目的で昭和41年から開催されており、今年度は和歌山大学が当番とな



閉会式を終えて

り、両者拮抗の白熱した戦いが繰り広げられました。17日(土)に行われた開会式では、和歌山大学の本山貢学長が式辞、本学の竹村彰通学長が祝辞を述べられました。続いて、昨年度勝利した和歌山大学体育会による優勝杯の返還が行われ、その後両大学団長である和歌山大学の尾久土正己理事、本学の渡部雅之理事により、激励の言葉が送られました。

両日とも天候に恵まれ大きなトラブル無く、予定していた競技をすべて行うことができました。対戦成績については、両大学とも非常に拮抗しており、最後の最後までどちらが総合優勝するかわからない手に汗握る展開でした。最終的には和歌山大学が13勝11敗3分と僅かにリードし、7年連続総合優勝という結果となりました。

18日(日)に行われた閉会式では、お互いの健闘を称えあい、今後とも良きライバル関係として、両大学の交流が一層深まることが期待されました。(通算成績は滋賀大学の31勝22敗3引分け)

滋大祭開催

11月4日(土)と5日(日)の2日間にかけて、第57回目となる「滋大祭2023」を彦根キャンパスで開催しました。

今年の実行委員は「雲外蒼天(雲の外には、青空が広がっているということから、努力して苦しみを乗り越えれば、すばらしい世界が待っている)」をテーマに掲げ、準備段階で苦戦する中でも仲間と協力しながらよりよい滋大祭を模索し、妥協なく満足のいく学園祭を催すことができました。

両日ともに天候にも恵まれ、キャンパス内の各所で模擬店やフリーマーケット、ステージイベントやクラブ・サークルの教室展示など様々な企画が催されました。学生だけでなく地域の子どもからファミリー、お年寄りの方まで多くの方々に楽しんでいただきました。



ステージ上の滋大祭実行委員

滋賀大学経済学部 百周年記念事業

滋賀大学経済学部の前身である彦根高等商業学校の創立百周年を記念し、本学の教育研究成果を次世代へつなぐ様々な事業を実施しました。

「現代の経営」開講

2022年秋学期に、本学設立時に支援いただいた地域にルーツを持つ企業から特別講師をお招きし、講義「現代の経営」を実施しました。伊藤忠商事(株)からは、同社の社長「三方よし」の実践経験をふまえて、副社長の小林文彦氏(写真上)に、また丸紅(株)からは、同社の中期経営計画「V・PLAN」の推進責任者として経営改革・成長戦略の遂行に多大なる貢献をされ、財界においても要職を歴任されてきた元代表取締役会長、名誉理事の朝田照男氏(写真下)に講義いただきました。



「ビジネスサイエンスフォーラム」開催

2022年11月18日(金)、日経カンファレンスルーム(東京)にて、「データサイエンス・AIが切り拓くビジネスイノベーション」をテーマに、本学が提唱するビジネスサイエンスの視点から、データサイエンスで変わるビジネスの未来を考察するフォーラムとして、多くの企業からの協賛と関係省庁からの後援をいただき、陵水会と共催することができました。また、本学のデジタル時代をリードする取組を社会に広く発信し、関係者との交流を深めるとともに、経済・経営・データサイエンス分野の教育および人材育成に関する社会啓発も行いました。

昨今のコロナ禍により活動が自粛される中であって、会場には企業様中心に約100名、ウェビナーを合わせて約400名の方にご参加いただきました。

「ビジネスサイエンスMOOC」第二弾公開

(株)ドコモが運営するオンライン動画学習サービス「gacco(ガッコ)」にて経営者・ビジネスパーソン向けに公開している、経営学とデータサイエンスを融合したビジネスサイエンス人材(DX人材)育成オンライン講座「滋賀大学ビジネスサイエンスMOOC」

(Massive Open Online Course/大規模公開オンライン講義)を2023年10月3日(火)にリニューアルしました。

これまで本講座では、統計学やマーケティング、マネジメントなど様々なビジネスシーンでの活用を重点を置いた社会人向けビジネスサイエンス講座を公開しています。今回のリニューアルでは、2024年4月に本学大学院経済学研究科に、日本初の学位、「修士(経営分析学)」(MBAN (Master of Business Analytics))を授与する「経営分析学専攻」を新設するにあたり、同大学院にて開講する「経営分析学専攻」「ビジネス・データサイエンス専修プログラム」の一部を今後公開していくこととなりました。

ムハマド・ユヌス教授による記念講演

2023年8月15日(火)、バン格拉デシュの経済学者でノーベル平和賞を受賞されたムハマド・ユヌス教授による記念講演会を開催いたしました。

グラミン銀行とユヌスセンターにインターンシップとして参画された



経済学部4回生の堀内毅さんとユナス先生との交流をきっかけに、宮西賢次准教授のコーディネートで実現し、バン格拉デシユと日本をリモート接続して「グラミン銀行の歴史と3ゼロの世界」をテーマに講演が行われました。

この模様は、YouTube「NextRyosui」チャンネルで公開しておりますので、こちらのQRコードからアクセスしてご覧ください。



市民講座

滋賀に根差した知の拠点として、地域住民への知の還元と豊かな地域づくりに貢献することを目的に、彦根高商創立時に多大なご支援を賜りました、地元彦根へのご恩返しを意識を込めて、市民講座(全3回)を開講しました。

第1回(9月10日)は、パツクンマツクンさん(タレント)、第2回(10月15日)はルゾンカ典子氏(コスモエネルギーHD常務執行役員CDO)、第3回(10月28日)は磯田道史氏(国際日本文化研究センター教授)を講師にお招きし、ご講演いただきました。

体育会硬式庭球部

創部百周年記念大会

10月22日(日)、本学彦根キャンパスにおいて、体育会硬式庭球部創部

百周年を記念して、日本テニス界のレジェンドである福井烈氏をお招きし、午前の部では、彦根キャンパステニスコートにおいて現役部員に対する技術指導が、午後の部では、「スポーツに学ぶ」と題して基調講演が開催されました。



記念植樹

彦根高商百周年記念式典に先立ち、メモリアルツリーとしてヤマボウシを、講堂のエントランスに植樹いたしました。滋賀県の大杉副知事にもご参加いただき、本学の竹村学長、中野経済学部長、椎名データサイエンス学部長、陵水会の山田理事長と一緒に、植樹いただきました。

初夏には清楚な白い花を咲かせるヤマボウシが講堂の白い外観を彩り、これからの本学の百年を見守ってくれることを祈っております。

彦根高商創立百周年記念式典

11月4日(日)、本学講堂にて、合計約360人のご来賓の方々をお迎えし、無事に開催することができました。

当日は、文部科学省高等教育局長の池田貴城様の代読で高等教育局国

立大学法人支援課企画官の田井祐子様から、また、滋賀県知事の三日月大造様の代理で副知事の大杉住子様からご祝辞を頂戴し、さらに旧彦根藩井伊家第十八代ご当主の井伊直岳様にご紹介いただき、茶道裏千家前家元大宗匠・千玄室様(写真上)より「今の心」というテーマでご講演いただきました。

彦根高商創立百周年記念祝賀会

最後に、彦根高商合唱団による勇壮な歌声で彦根高商校歌および琵琶湖周航の歌が、本学のオーケストラ部の伴奏で演奏され(写真下)、閉会となりました。



て開催され、合計240人を超えるご来賓の方々にご参加いただきました。

本学の邦楽部の歓迎演奏、およびよさこいサークル 柊(もみじ)の開会演舞(写真)に始まり、本学の前

学長でもある国立大学協会専務理事の位田隆一様からご祝辞をいただきました。また、十六フィナンシャルグループのご厚意で贈呈頂いた百周年を記録した資料動画のお披露目があったほか、最後には、ヨット部OB嶋様によるエールを皮切りに、ご来賓の皆様による、「彦根高商校歌」および「琵琶湖周航の歌」斉唱で締めくくられるなど、大変楽しいひと時となりました。



経済学部百周年記念事業サイトの案内

ここでご紹介させていただいた取り組み以外につきましては、滋賀大学経済学部百周年記念事業サイト(https://100th.econ.shigau.ac.jp/)に掲載しております。

こちらのQRコードからアクセスしてご覧ください。

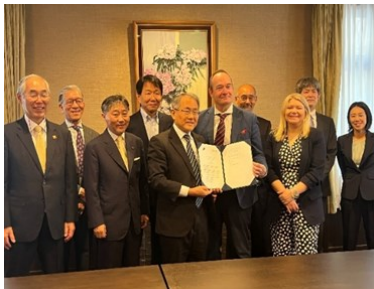


国際交流

SOAS University of London と学術交流協定(MOU)を締結しました

11月4日(土) イギリスのSOAS University of London (ロンドン大学東洋アフリカ学院)と学術交流協定(MOU)を締結しました。この日、彦根高商創立百周年記念式典が開催されるのに併せ、SOASとのMOU締結式を開催しました。

SOASは、百年以上の歴史を誇り、充実した人文科学・社会科学のプログラムを持つだけでなく、とりわけアジア、アフリカおよび中近東の地域研究を専門とする世界最高の教育・研究機関の一つです。また研



締結後の記念撮影

究対象の地域から多数の留学生や研究者を受け入れており、国際色豊かな大学として知られています。

今回、経済学部・データサイエンス学部同窓会である陵水会理事長等のご尽力により、本学とのMOU締結に至りました。締結式では、サインの後、本学の竹村学長、SOASのGraeme Earl 人文学部長それぞれから、両大学の今後益々の研究および教育分野における協力関係の発展に期待していること、また教職員の交流はもとより交換留学等学生の交流も活発に展開されることを望んでいる旨のご挨拶をいただきました。その後も参加者一同、今後の両大学の交流の可能性に関し、和やかに懇談が続きました。

今後は、学生交流協定を締結し、来年秋季期からの学生の相互交流を目指しています。経済学部・データサイエンス学部等の学生の交換留学派遣先として期待されます。

クリスマスツリー点灯式を開催しました

11月27日(月)夕方に、クリスマスツリーの点灯式を開催しました。このツリーは、昨年、福岡の企業さんから、「滋賀大学へ避難して

来ているウクライナからの留学生さんのお力に少しでもなれば」という思いで本学にご寄付いただいたものです。今回も、ウクライナから避難して来ている2人の学生により点灯がなされ、黄色と青色のウクライナカラーの電飾に明かりが灯りました。キラキラ輝く電飾に、みんな心をうばわれ、心が洗われるようでした。



続いて、留学生有志による歌の披露がありました。交換留学生として本学にきているオランダ、マレーシア、台湾等からの留学生から、クリスマスにちなんだ4曲(Feliz Navidad, Silent Night, Jingle Bell Rock, Last Christmas)が披露されました。会場に来ていた皆と一緒に、手拍子やリズムに併せ体を動かしたり、一緒に



口ずさむ人等、皆さん思い思いに楽しんでいました。本学は、一刻も早く、ウクライナはもちろん、全世界が平和な世の中となるように切に願っています。

シリコンバレー研修

経済学部教授 金 秉基

2023年8月7日〜18日、シリコンバレーの中心に位置しているサンノゼ州立大学において「2023 Silicon Valley Innovation & Startup Program」の研修を実施しました。この研修には、滋賀大学の経済学部学生17名、DS学部学生2名、DS研究所大学院生1名の20名が参加し、イノベーションやスタートアップについて学びました。



研修は、サンノゼ州立大学の Silicon Valley Center of Operations and Technology Management で実施され、アントレプレナーシップやAIなどの専門家、シリコンバレーで起業、経営しているCEOなどが講師として学生を指導しました。参加学生は4グループに分かれて商品開発と起業を目指したプロジェクトに取り組みました。最終日には、イノベーターな商品やサービスをグループ全員で協力して作り、それを商品化するというプロジェクトをプレゼンテーションしました。起業と資金調達を想定したプレゼンテーションは、今後社会で活躍する学生にとってはかけがえのない有益な経験でした。



また、シリコンバレーの企業文化を理解するためのカンパニーツアーを行い、インテル、ゲーグル、アップル、テスラなどの企業を訪問して、これらの設立背景や成長過程などについて学びました。サンフランシスコ観光では、ゴールデンゲート・ブリッジ、デ・ヤング美術館などを観光しました。自由時間である土曜日には、スタンフォード大学を訪問したり、サンフランシスコでケーブルカーに乗ったり、ウオルトディズニーフアミリー博物館を訪問したりしました。

プログラムの内容は、シリコンバレーならではのものが多く、参加学生にとって非常に有益なものでした。学生からは、これからの大学での勉強はもろろん、社会人として欠かせない知識と経験を得ることができたと、非常に高い評価と満足度をいただきました。

なお、この研修に参加した学生に対しては、イノベーション、アントレプレナーシップ、スタートアップ等を学んだ証として、国際的な技術標準規格に基づくデジタル証明書の一つである「オープンバッジ」を発行しています。

後援会からも渡航費用の一部をご支援いただいたことに感謝申し上げます。

タイスタディツアー

データサイエンス・AI
イノベーション研究推進センター
教授 深谷 良治

2023年9月3日から12日までの10日間、タイ王国でスタディツアーが行われました。データサイエンス学部の学生6人と研究科の学生3人が参加し、タイのモノづくり教育、DX（デジタル変革）、現地日本企業やタイ企業の実況、歴史文化などを学びました。

秦日工業大学（TNI）との交流では、ものづくり教育の現状を視察し、サイババル・タイ語研修や伝統音楽レッスンで文化交流を行いました。データサイエンス系教員によるデザイン思考ワークショップでは、



カフェの顧客データ分析を通じたビジネス価値創造に取り組みました。

タイの大手財閥CPグループ（食品、小売、テレコム、不動産、製薬、自動車、再生エネルギー、金融の8部門を展開）訪問では、先進的な小売現場（無人レジ、ダイナミックプライシングタグ、顧客動線分析）を視察しました。さらに、データサイエンスやAIを活用したビジネス（スマートコンビニ、養豚・養鶏・エビ養殖、ヘルスケア）の応用事例の説明を受けました。

NTTデータ（タイ）訪問では、タイの銀行業界のDX事情や日系自動車会社へのITソリューション提供事例を聞き、プロジェクトマネジメントの秘訣やビジネス分析ツールの重要性について学びました。さらにデータ分析ツールを使った見える化のプレゼンテーション演習を行いました。また、陵水会タイ支部の滋賀大OBの方々と意見交換会では、海外で活躍する先輩方から薫陶を受けました。

帰国後の報告会には、ご支援いただいた企業の経営者も参加され、発表した学生からは、「タイは、日本よりもデジタル技術の活用に関して積極的」、「日本に対する知識（歴史、地理、芸術、文化、習慣）を知っておくことの重要性」、「日本の中だけで凝り固まった価値観、判断基準を認識した」、「現地に足を

令和5年度滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧
(令和4年4月～令和5年3月末日までの受理分)

Table with columns: 分類, サポート対象事項, 基準, 報奨額(円), 給付件数, 給付者氏名(敬称略) (回生は申請時). Rows include 1. 日商簿記検定試験, 2. 税理士試験, 3. 公認会計士試験, 4. 証券アナリスト試験, 5. データベーススペシャリスト試験, 6. 品質管理検定, 7. 統計検定, 8. TOEIC (公開テスト), 9. 留学, 10. スポーツ・文化活動...

注) 1. 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。

運び、現場を自分の目で見て理解することの大切さ」といったコメントが語られました。このスタディツアーは、アジアにおけるデジタル変革への取り組みを目的とした学生に多岐にわたる学びと気づきの機会を提供しまし

資格取得等報奨制度

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後、データ

サイエンス学部の設置等に伴い、対象試験等の一部を改正しています。今年度(令和4年4月から令和5年3月受理分)は、左表の通り、82件に対して給付され、これまでの累計で500件(団体含む)が対象となりました。学生からはステッパアップのための資金にしたいとの頼もしい声がかれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

令和6年度後援会総会について

令和6年度後援会総会につきましては、後援会規約第14条第3項により役員会の開催をもって代えさせていただきます。審議資料や議事録につきましては、開催後すみやかに後援会HPにて皆様にご報告させていただきますのでご了承願います。

後援会HPにはこちらのQRコードからアクセスしてご覧ください。



編集後記

後援会だよりは次のURLでもご覧いただけます。 https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html

〒522-8522 彦根市馬場一丁目一番一号 FAX 0749271132